

「小学校プログラミング教育の手引」の改訂（第三版）【令和2年2月】について

改訂について

総合的な学習の時間における企業と連携しながら行う授業実践を踏まえた指導例の追加や、プログラミング教育に必要なICT環境・教材整備、研修の留意事項等について説明を充実させる観点などから改訂を実施。

- ✓ 今回の改訂では小学校プログラミング教育のねらいや育む資質・能力、学習活動の分類などの考え方については変更ありません。
- ✓ よって、第二版で示されていたプログラミング教育の考え方に変更はありませんので、例えば、第二版を参考にしながら行われた教員研修を、即時に改めて行わなければならないということではありません。

主な改訂内容

1 総合的な学習の時間の指導例の追加、説明の充実 【第3章】

- 総合的な学習の時間において、「プログラミングが社会でどう活用されているか」に焦点を当て、企業と連携しながら行う指導例の追加（※）
※ 令和元年9月に設定された「未来の学び プログラミング教育推進月間」（みらプロ）において取り組まれた実践を基に作成

自動車メーカーと連携する指導例

情報技術を生かした最新の自動車や安全な社会に向けたものづくりに携わる人々との関わりを通して、情報技術が人々の生活や生産活動の改善に生かされていることに気付くとともに、情報技術の進展と豊かで安全な生活について考え、その実現に向けて取り組む。

住宅メーカーと連携する指導例

私たちの住む家の仕組みを調べたり、暮らしやすい家づくりを提案したりする活動を通して、これからの住まいにおける快適な暮らしには、取り巻く環境に配慮し、多様なライフスタイルや一人一人のニーズに応じた工夫が存在することに気づき、情報技術によって豊かで人と人との関わり合いのある生活を実現する家づくりについて考える。

インターネット関連企業と連携する指導例

自分たちの住むまちの魅力を調べ、その魅力についてチャットボットを活用して発信する活動を通して、自分たちのまちにはいろいろな魅力があることやプログラミングを使った情報発信のよさに気づき、自分たちの住むまちの問題を自分事として捉え、その解決に向けて自分にできることを考える。

- 総合的な学習の時間において、プログラミングを体験する際、「探究的な学習の過程に適切に位置付くようにすることについての説明を充実

2 環境整備、研修などに関する記載の追加 【第5章】

- ICT環境・教材の整備の必要性や留意事項について記載
- 研修の必要性や留意事項について記載

上記の他、時点更新や文章の補足などの修正を行った。